

## めばえ保育園の自己評価

令和5年4月より「子ども家庭庁」が発足し、「こどもまんなか社会」の実現に向け社会全体での取り組みがより一層強まりをみせている。そのような中、当園の保育が子どもの意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されるものになっているかの検証を保育者の関わりを主として今年度も継続的に行った。

特に、主な出来事については、園独自で作成したフォーマットを活用し、保育所保育指針解説や専門書に基づいた省察を積み重ねていき、専門性の高い保育になるよう努め、書くための日誌ではなく、「子ども理解の深まり」と「専門性の向上」につながる記録になるよう取り組みを行った。

また、実践課題としていた「芽生えた興味関心が満足できるよう特に0~2歳児までに、自分で決めてやる」「子どものやりたい思いを保障していきながらも、必要に応じた選択肢を持たせるようにしていく」保育を通じて0歳児でも「イヤ」という意思表示をしっかりと出す姿から、年齢が上がるにつれて徐々に友達との思いのぶつかり合いながらも、話し合いを通して折り合いをつけられる姿などが多く見られるようになってきたように感じている。

さらに、今年度は園理念、保育方針、保育目標の見直しを多くの職員で議論を重ね下記の内容を踏まえ、新たに定めたところである。

- **異年齢交流の重要性**: 異年齢の子どもたちが自然に関わる中で、年下は年上を見て育ち、年上は年下を思いやる心が育つ。設定された活動だけでなく、自由遊びの中での自発的な交流が非常に価値がある。
- **子どもの主体性を尊重する保育**: 子どもは「自ら育とうとする力」を持っており、保育者の役割はその力が発揮されるよう環境を整えることである。指示するのではなく、子どもがやっていることに共感できる人が良い保育者である。

**園理念**「一人ひとりが現在を最も良く生き、心豊かに未来をつくり出す知恵と力がめばえる」

**保育方針**「子どもが自ら育とうとする力を、環境と関わりの中で支える」

- 保育目標**
1. 「やったらできる」と自信をもち、自ら考え最後までやりぬく心。
  2. 人やものを大切にし、感謝や思いやりを表せる心。
  3. 仲間と協力しながら、自分らしさを発揮できる心と力。

次年度も掲げた理念、方針、目標につながる保育を実践しながら、子ども達と充実した日々を過ごしていきたい。